

# ココ・ファーム・ワイナリー

## 2015 こころみノートン



「2015 こころみノートン」は私たち、ココファームのおもしろい傾向を表現している点で特別です。

はじめに、ノートン種主体でつくられていることです。ノートン種は限られた地域でのみ栽培されている非常に珍しい品種です。独特な気候の日本で上手く育ち、且つおもしろい品種を探しているとき、私たちはこのノートン種に興味をもちました。多くの葡萄品種は高温、多湿で、夏に雨の多い地域では順調に育ちにくく、例えそのような状況でつくれたとしても、果実味がなく、色の薄い、水っぽいワインになってしまうでしょう。しかし、私たちはこの事に当てはまらないワイン産地を見つけました。それは、アメリカ合衆国東海岸のヴァージニアや中央部のミズーリという地域です。日本より雨の多い気候にもかかわらず、その地域原産のノートン種（シンシアナ種）で果実味たっぷりの色の濃い、印象的なワインをつくっていました。ノートン種であれば日本でも上手く育つと思い、日本で初めて苗木を増やし、こころみ学園の畑で栽培し始めました。

私たちは葡萄を慎重に扱い、乾燥酵母でなく健康で香り高い葡萄についた野生酵母で醸酵させました。醸酵後やさしく搾り、樽に入れ熟成させました。ティスティングで良いバランスの樽を選別しブレンドを決め、オリ引きし、清澄やろ過なしで、瓶詰めしました。

より純粹に飾り気なくつくったのは、こころみ学園の畠からできたノートン種の濃さと奥深さを表現したかったからです。

### ハーヴェスト・データ

品種	品種割合	産地	畠	収穫日	使用割合
ノートン	91.0%	栃木県足利市田島	こころみ学園	2015/10/6, 7, 8, 9	91.0%
タナ	9.0%	栃木県佐野市赤見	こころみ学園	2015/10/5	9.0%

収穫時の糖度 20.5°Brix (平均)

### テクニカル・データ

#### 醸酵:

葡萄を除梗し、軽く破碎する。1日2回ビジャージュしながら醸し、徐々にマストを温めてゆく。4、5日すると天然酵母による醸酵が自然に始まる。醸酵は高めの温度で進み、残糖がなくなるまで続く。約2週間醸した後、マストをプレスした。小樽に移し野生乳酸菌によるMLF (マロラクティック醸酵) を促す。

#### 熟成:

オークの小樽で約5ヶ月熟成後一度オリ引きした。更に2か月熟成後各樽をブレンドし、清澄・ろ過処理なしで瓶詰め。

#### 瓶詰:

瓶詰日: 2016/5/19 本数: 3,227 本 (750ml)  
アルコール: 11.3% 酸度: 0.67 g/100 ml 残糖: 0.23 %

### このワインについて

#### ティスティング・コメント:

「2015 こころみノートン」は、軽やかだがしっかりと酸味が特徴のワイン。香りは、すみれやジャスミンのような華やかな花の香りを主体に、カシスやブルーベリー、ブラックチェリーなどのフルーツに八角、ナツメグの香りが複雑さを出している。口に含むと、カシスやラズベリーのチャーミングな果実と、クローブなどのスパイスのフレーバーが広がり、しっかりと酸味、旨味、細かい渋みが余韻を残す。

#### 料理との相性:

スペアリブ、黒酢の酢豚、八角を効かせた角煮、鴨肉のローストフランボワーズソース、モツのキムチ炒め、鰯（いわし）の梅煮、めかじきのソテーバルサミコソース、レアチーズケーキとチェリーソース

#### 飲み頃:

現在から5~10年後: 現在もフレッシュな果実味を楽しめる。熟成を経ることで、口当たりが柔らかに広がる、ゆったりとしたまろやかで複雑なワインとなるだろう。